

県北屈指の田園工業都市、水稻の生産量で県内1位を誇る農産地、清流・那珂川や多くの温泉、文化財に恵まれた観光地。大田原市にはさまざまな顔がありますが、近年、とくにスポットライトをあびているのが「歴史とロマンの里」の一面です。

大田原市には、歴史の香り豊かな文物が数々残ります。古くたどれば旧石器時代や縄文時代の人の営みの跡も出土していますが、やはり大田原市の名を広めたのは、国宝で日本最古の石碑とされる那須国造碑でしょう。花崗岩の碑に刻まれた152字の碑文は、漢字が日本に定着した時期の史料として、高く評価されています。

時代は下り平安時代末期を迎えると、市ゆかりの人物として歴史の舞台上に登場する

のが、那須与一です。『平家物語』に描かれた屋島の戦いの名場面、与一が扇の的を射落とすシーンでは、平氏から源氏へ武運が傾いたことを象徴する、象徴的な役割を果たしています。

江戸時代の俳聖・松尾芭蕉も、そんな与一のエピソードに心を動かされた一人。市内の黒羽地区に逗留した芭蕉は那須神社を訪ね、「**与一扇の的を射し時、別しては我国氏神正八まんどちかひも此神社にて侍と崗ば、感應齋ひきりに覚えらる**」と記しています。

今日、那須与一の姿はご当地キャラクター・与一くんのほか市内各所で見ることができ、市の顔として今も市民に深く愛されています。



大田原市

豊かな自然と歴史の文物、地域の資源を活かして活性化を図る

このページでは、個性豊かな県内各市町の姿をご紹介します。今回は、那須与一ゆかりの地・大田原市の登場です。

「那須与一」ゆかりの地、大田原市

那須神社を中心に、与一の名・姿は市内随所に残り、今も深く慕われています



那須神社

4世紀の創建の後、征夷大將軍・坂上田村麻呂が八幡宮として奉ったとされる古社。源平の戦では那須与一が戦勝を祈願し、その後社殿を建造したとされ、以後、那須氏の氏神として信奉されました。『平家物語』の名シーン、与一が扇の的を射る場面では、「南無八幡大菩薩……」と念じたと描かれています。

現在は与一奉納の太刀が残り、太々神楽、獅子舞、流鏑馬なども有名です。平成26年には本殿と楼門が国の重要文化財に指定され、さらに境内は松尾芭蕉ゆかりの「おくのほそ道の風景地」として国の名勝にも指定されました。



楼門

道の駅那須与一の郷

市内・国道461号沿いの道の駅。与一にちなんで扇型にデザインされた屋根の建物が特徴です。新鮮な農産物やそば、豆腐など地元の物産を紹介し、とくに特産のとうがらしを使ったジェラート、クロquetteなどが人気です。



与一伝承館

道の駅内の施設。与一が扇を射抜いた屋島の合戦のシーンをからくり人形と映像で再現する「扇の的劇場」、那須家伝来の宝物等の資料を展示する「那須与一展示室」、大田原市特産の竹を使った人間国宝作の竹工芸を展示する「竹のギャラリー」など、多彩な展示を誇ります。



▲市内の消火栓のふた。市内にはこうした与一のモチーフが随所に残ります。



▲市内の消火栓のふた。市内にはこうした与一のモチーフが随所に残ります。

大田原市の見どころ

●大雄寺

1404年の創建とされ、室町時代の建築様式を残す総力や萱葺き屋根の7つの建築物で有名な禅寺です。シャガやポタン、アジサイなどの花々のほか、紅葉の季節も多くの人が訪れます。



●芭蕉の館

芭蕉が、おくのほそ道の道中で最も長く滞在したのが市内黒羽地区の大関家でした。芭蕉の館は、数多く残る芭蕉の足跡を整理し、資料を展示するほか、隣接する芭蕉の広場や散策路の芭蕉の道では、風情豊かな時間をすごせます。



●侍塚古墳

市内の湯津上地区は、20基を越す古墳が確認されていますが、なかでも有名なのは、徳川光圀の命で日本初の学術発掘調査が行われた上侍塚古墳です。



●佐久山陣屋跡(御殿山公園)

那須氏一族の佐久山氏が築いた城で、同一門の争いで廃城となった後、今は空堀・土塁が残ります。現在、城跡は御殿山公園として整備され、紅葉の名所として市民に愛されており、毎年11月10日～25日の紅葉まつりではライトアップされます。



●雲巖寺

松尾芭蕉の句碑が残る雲巖寺は、1283年、仏国師による開山とされる古刹。禅宗4大道場の一つとしても有名ですが、境内には樹齢550年の杉の大木、朱塗りの瓜鉄橋など数々の見どころが残ります。



●大田原市なす風土記の丘 湯津上資料館

那須国造碑の建立と発見をテーマに展示を行う資料館。碑が建立された時代の状況を解説した展示のほか、徳川光圀による侍塚古墳発掘の業績、出土品なども紹介しています。



●笠石神社

那須直章提の遺徳を称え、700年に建てられた「那須国造碑」を御神体として祀る神社。碑は長く埋もれていたが江戸時代に発見され、徳川光圀の命で碑堂が建立。日本三古碑で、書道史、古代史、近世史、文化財保護史上重要で、明治44年国宝、戦後は昭和27年新制度の国宝に指定されました。



●那須野ヶ原 ハーモニーホール

大田原市と旧那須野ヶ原(現・那須塩原市)による、全国初の自治体共同文化会館として建設された施設。2013年に完成した国内初のフランス式パイプオルガンのある大ホールのほか、球形をした小ホールなど個性的・充実した設計で知られ、冬季(11月下旬～1月中旬)はホール全体にイルミネーション(写真)が施されます。



「道の駅那須与一の郷」の与一の像



東京ヤクルトスワローズ 真中 満 監督

那須与一を大田原出身のオールスターとすれば、今一番の注目のニューヒーローは、やはり東京ヤクルトスワローズの真中満監督でしょう。

真中監督は大学野球で数々の記録を作った後、スワローズへ入団。名外野手として活躍されたほか、代打では代打起用回数・代打安打数の記録を残し、「代打職人」の名を輝かせました。そして今シーズンは、一軍監督就任1年目にしてリーグ優勝という快挙を達成されたのです。そして臨んだ日本シリーズはあと一步、残念な結果となりましたが、まさに郷土の誇りといえるでしょう。

profile

●大田原市

大田原町・親園村・金田村の合併で大田原市が誕生したのは、昭和29年12月のこと。その後、平成17年10月には湯津上村・黒羽町と合併し、今の大田原市の姿ができてきました。

県北東部に位置する同市は、那珂川の清流や八溝山系の豊かな自然に恵まれてきましたが、大田原氏が居城(大田原城)を築いた16世紀中盤以降はその城下町として発展。さらに江戸時代には、奥州街道の宿場町としても大きな賑わいを見せるようになりました。今も旧市街地には、城下町の面影が随所に残っています。

▶面積: 354.12 平方 km
▶人口: 75,199 人 (29,038 世帯)